

会員企業探訪

精緻な手仕事で アンティークを 創り出す工房

代表取締役 松崎 直也



ゆっくりとした時間を感じさせる店舗内には家具が所狭しと並び、小物がさりげなく色を添える



天神川の南側、くびき道路から西に70mほど入ったところに工房兼店舗を構える



丁寧に磨きあげることでも木の美しさがよみがえる
工房では木の加工のほか溶接なども行う



持続化補助金を使い、ホームページとカタログを作成

経営理念

温故知新

自分以外はすべてお客様だと思え。
どんなときでも人に対する思いやりを持ち、
自分自身は謙虚に。

天神川沿いの古民家を改装したギャラリーと工房に足を踏み入れると、そこには違った時間の流れる空間が広がっていた。昭和の時代の香りがするような家具、調度品、灯り、そしてガラスコップや器などの雑貨。どれも骨董品とまではいかないが、それ相応の時間を経た味わいのある品が雑然と並べられている。この飾らない雰囲気フラットスタイルの現在地をしっかりと表現している。そこに言葉は要らないとでもいうように、モノ自体が語りかけてくるようだ。

フラットスタイルは2003年にリメイク・リペア家具屋として上乃木で開業した。来店した客から、なんでこんな古いものばかり置いているのかと聞かれるくらい、当時としては風変わりな仕事だった。その原点は松崎さんの高校時代の引越アルバイト経験にあるという。そこでは多くの古い家具が捨てられていた。もったいない、まだ使えるのと思った。たとえ傷や汚れがあってもそれは長く使い込まれた証であり、お金に替えられないものではないかと感じた。このように捨てられてしまう家具にもう一度、命を吹き込めないか。本来なら捨てられてしまふものに新たな価値を付けられないだろうかかと考えた。高卒後、広島の専門学校でインテリアデザインを学び帰郷し、家具製造会社勤務の後、自分のやりたいことはやはりこれだと独立。一人で古材を使ったイスやテーブルなど

「古いものの良いところを活かし新しいものと融合させることで、これまでなかった使い方、新しい価値の提案をしたい」という。その思いは家具づくりにとどまらずリノベーションを施した家や店舗に発展し、それらの点をつなげて面にすることで、まちづくりにも貢献できるのではと考える。

「古いものを壊して新しいものを作るのは簡単です。しかしそれでは都会と同じ。松江には古くて良いものがまだ残っています。今は使われていない物件もリノベーションによって、新しい命を得ることもできる。古いものに新しい工夫を入れていかに街の中に残していくか。それが街全体の景観や雰囲気、松江らしさを作っていくのだと思います」

松崎さんは「温故知新」という言葉を自身の仕事のコンセプトにしている。故きを温ねて新しきを知る。古い道具や家具、建物を見るのが好きなのは、そこに様々な工夫や素晴らしい意匠があり、学ぶことも多いからという。「釘が貴重だった時代、どのように部材を接合させたか。ないなら自分で工夫する。なければ自分で作る。当時は加工の道具さえ職人自らが作っていた。それがわかるから面白い」とその

を作り始めた。周囲からはそんなもの誰でも作れると言われたりもしたが、好きで始めたことだからと風評に流されずコツコツと仕事を重ね実績を作った。そして15年前に現地に移動してからはフラットスタイルの目指すものを次第に認めてもらえるようになり、手仕事にこだわる事業も、家具単体から室内空間づくりへと広がっていったという。

リノベーションで暮らしを豊かに
新しい価値を提案する仕事を

現在の仕事は店舗・住宅のリフォーム・リノベーションが6割、オーダー家具製造が3割、小物などの物販が1割で、その数字が示すように改装の仕事がフラットスタイルの屋台骨となっている。その仕事ぶりもユニークで、改装といっても新築のように仕上げるのではなく、古材の味わいを活かすよう工夫し、柱の傷なども大切な思い出のひとつと考え、あえて残す。そして施主とその都度話をし、お互い理解し納得し合いながら作業を進める。松崎さんはCADなどは使わず、現場で鉛筆のスケッチ画などを使ってアイデアや施工法を施主に説明することが多いという。まさしく現場・現物主義である。

「図面で示しても質感や色味までは伝わらない。それよりお客様がよく理解できるよう、実際にこんな色のこんな形の棚を話し合いながら作っている。」

魅力を語る。

オンラインショップにも注力

フラットスタイルでは小規模事業者持続化補助金を活用してホームページとカタログ冊子を制作した。どちらもシックな仕上がりでアンティークが好きな層の好みに合う雰囲気づくりに成功している。とくにホームページ上のオンラインショップには昭和感あふれる家具や小物、雑貨類が並べられ、フラットスタイルのカラーを前面に押し出す。これを見て気になりギャラリーまで実際に足を運ぶ人も増えているという。

インテリアの魅力には終わりが無いという松崎さん。人によって、暮らしによって様々な使い方があり、またインテリアの提案で暮らし方も変わっていく。古くて良いものを残しつつ新しいものを組み合わせることで日々の暮らしを豊かに、さらには島根の暮らしの良さを伝えていけたらと語ってくれた。

■ Flat Style
〒690-0054 島根県松江市新雑賀町4-6
TEL0852-24-0883
【営業時間】10:00~18:00
【定休日】不定休【駐車場】1台
【Web】https://flatstyle.com/